

# No. 1476

## 科学万博あと一年

科学万博——つくば'85の開幕まで一年。

3月17日には東京・日比谷シティで「科学万博開催一年前まつり」が行なわれました。

土光敏夫博覧会協会会長が「成功に向けて頑張る」とあいさつ。女子コンパニオンの制服も発表され万博ムードが盛り上りました。

一方、会場となる筑波研究学園都市の建設も順調。日本政府館も骨組が完成し内装を待つばかり。国内企業28グループ、海外出展40ヶ国を超えるとか。21世紀を考える科学万博の成功を期待したいものです。

## 春の詩

— 伊 東 —

寒く長かった冬もやっと終わり、各地で春の訪れ。ブルシャンブルーに光る海。春風に誘われて私たちも旅に出ました。ここは静岡県・伊豆半島の城ヶ崎海岸。その昔、大室山噴火で溶岩が海岸に流出。大小無数の岬をつくり、波の浸蝕で数10メートルの絶壁ができました。ピクニカルコースを歩けば、おそすぎた春を待ちわびたかのよう、どこも菜の花が満開。大室山のふもとにある「動物と植物のパラダイス」シャボテン公園はちょうど春のシャボテン祭り。時ならぬ笑い声、そこではチンパンジー君たちの愉快的なショーが行われていました。ちよっと、のぞいて見ましょう。

いで湯のふるさと「伊東温泉」は数多くの詩人や歌人が訪ねていますが、伊豆の瞳といわれる一碧湖は、与謝野鉄幹、晶子もよく訪れています。

あいにくの雨、そして午後からは寒い冬の名ごりを残してか、小雪。今日は外歩きをやめて、一碧湖の隣にある池田20世紀美術館を訪ねました。

ピカソ、ルノアール、シャガール、マチスら20世紀に制作された作品が1000点以上も展示されています。どこからともなく甘ずっぱいみかんの香り。「みかんの花が咲いている……。」子供の頃よく歌ったワ。海に浮かぶ船も、そして伊豆半島から見る富士山も皆、春がすみに包まれ、ボンヤリ。いたる所で春を見つけた私たちの春の旅でした。